

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500145		
法人名	株式会社 MOUNT FLOW		
事業所名	クララ清流式番館		
所在地	千葉県流山市古間木313-6		
自己評価作成日	平成28年11月4日	評価結果市町村受理日	平成29年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成28年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クララ清流式番館は 1.寝たきりにさせない 2.メリハリをつけた生活リズムの継続 3.残存機能を活かしてできることはご自分で を合言葉に、スタッフ一同取り組んでいます。
--

クララ清流式番館は本館に隣接して平成24年に開設した1ユニットの新しいホームである。管理者は代表者の子息の好青年で、暖かみのある人柄と的確なマネジメントにより職員や家族、近隣の方等からも信頼されている。介護に精通した代表者と連携しながら、生活リズムを重視した自立支援のケアを実践している。入居者一人ひとりの詳細なケース記録や接遇・介護技術・個別留意点などの細かな気付きを記入した連絡ノート等を活用して職員間で日々振り返り、より良い支援の在り方を共有する等、着実な職員育成にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域から真に求められるホームとなるよう、事業所理念「尊い存在として大切に思う心」を持って管理者の指導の下、スタッフ同ケア実践に努めています。	理念に沿った支援の実践に向けて、連絡ノートには接遇・介護技術・一人ひとりへの留意点など各人が細かな気付きを記入し、日々OJTで指導するとともに、定例会議等でも話し合っている。	連絡ノートの記録及び活用は充実しておりホームの財産である。記入された留意点をマニュアル化して行動指針にするなど、さらに発展的に活用されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩の際に、ご近所の方々とはあいさつ・会話を心がけている。地域行事や清掃への参加、リサイクル回収への協力をし、接点を持つように努めている。	自治会の一員として行事や資源ごみ回収、ホーム周辺道路の清掃など、入居者とともに日常的に地域の方との交流がはかれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも、どなたでも相談に来ていただいてもよいよう体制は整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行っている。参加して下さるご家族様も多い。	運営推進会議には毎回多くの家族や地域包括支援センター職員及び自治会長などの参加を得て本館と交互に年各3回開催している。今年から市の方針で職員の参加は得られなくなったが、議事録は新設された市の定型様式で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員は運営推進会議にも出席されるので、様子を知っていただく機会となっている。管理者は市の担当者とは良い関係を築くよう心掛けている。	グループホーム連絡会には必ず市の職員が複数参加するので、話し合っている。また、流山市民祭りでは市と共催でブースを出し認知症についての啓発活動を行うなど、施設長と同世代の若手の市職員との交流は活発である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	ホームでは本人の気持ちに寄り添って不安や苛立ちを解消し、身体拘束を行わないケアを徹底している。現在身体拘束が必要な方はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について理解し、言葉使いや、話す時の目線にも気を配っている。身体チェックは日々行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については今後勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時、ご家族様からの質問等を含め、時間をかけ説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様からの意見要望は常日頃、聞きとり、管理者へ報告し、反映させている。	運営推進会議には毎回多くの家族が参加され家族との交流の場となっている。また定期的に来訪の家族も多いのでその機会も大切にしている。毎年実施の利用者家族アンケート結果を真摯に受け止め対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はミーティング、日々の報告の中でスタッフの意見提案を聞いている。	施設長はよく現場に出て職員に接し、また職員の帰宅時には必ず1日の状況を確認する等して職員の気持ちを掌握している。この1年職員の離職もなく明るい職場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を常に行い、やりがいを持って働けるように常に職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が現場に入り指導し、教育することが多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会で今後交流会があれば参加したい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の話を良くお聞きし、上手く伝えられない方にも耳や目を向け、出来る範囲で声かけし意思を確認するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートなどを活用しながら、ご家族の不安や要望を汲み取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居検討のご本人に実際に会いに行き、見極めの努力をしている。体験入居や一日体験という仕組みを活用しながら見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩に決して失礼のないように対応しつつ、日常的な活動を共に行い、一緒に暮らしていると思って頂けるよう家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様のご面会や電話があった時などホームでの様子をお伝えし、ご本人様との面会では十分時間を取って頂くよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設での生活の安定が第一ですが、お手紙、電話でもお話出来るよう対応しています。	昔馴染みの方の来訪は多くはないが、日々の散歩時や道路掃除などを通じて、近所の方と馴染みの関係を作っている。贈り物や手紙が届いた時には職員も一緒に読む等して喜びを共にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様、スタッフが間に入り、入居者様同士が関わり合えるよう努めている。全員が楽しめ、参加して頂ける場を作るようにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でもいつでもご相談頂ける様お声かけし、対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話できるご利用者様には常に話しかけ、日々様子観察し、変化があればすぐ気が付くように心がけている。	入居者への声掛けや会話等日常のかかわりを大切にしており、意向表出の困難な方には表情・仕草等から汲みとっている。変化や留意点は細かく申し送りしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から初めにお聞きしている。入居後、ご本人様からお聞きしたことはスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご入居者様のご様子は記録を通して把握し、有する力についてはスタッフ間で声をかけあい共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングを行い、ご本人、ご家族、スタッフ、管理者、代表者と密に連携し、その都度状況に即した介護計画書を作成している。	入居者の生活記録や変化などを細かくケース記録に残して、日々の申し送り等で職員間で伝達共有している。それらを基に本人・家族の希望を入れて、3ヶ月に一度、また必要に応じて都度モニタリングを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は毎日行い、特変、対応、その結果については詳しく記入するようにして早めの対応に繋がっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎の支援などご本人やご家族様の状況に応じて行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りやイベントに参加したり近所への散歩によって自然に触れ季節感を楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望の方は、その医療を受けて頂くようにしている。	入居時にホームの協力医療機関である病院とクリニックを案内し、いずれかを選択をして頂いている。それぞれ2週間に1度来診がある。それ以外の医療機関への通院は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックの情報や気づいた点を詳しくかかりつけ医に伝え、適切な受診を受けられるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはADL等の情報を伝え、退院後には施設での生活がスムーズにいくように、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも終末期の対応の指針についてご説明をしている。ご本人の様子を見ながら管理者と共にご家族様と話し合いを重ね、共有を図っている。	契約時に「終末期の対応の指針」に沿って事業所方針を説明している。現在対象者はいないが、家族とは来訪時等に普段から話し合いを持ち、意識の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや現場での初期対応の指導のもと実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を行っている。夜間を想定した訓練を行い、地域の賛同者の方の協力を得ている。回を重ねてより良い方法を探っている。	年2回の消防訓練(内1回は消防署の指導)を実施している。夜勤者1名の夜間想定訓練で、地域の方の協力も得て年々避難時間の短縮が出来ている。大型冷蔵庫を備え、食材は常時1週間分程度は確保している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の理念のもと、常に心掛け、対応を行っている。	入浴は同性介助で行い、トイレ・着替え時などの時にも本人の気持ちに配慮して対応している。「尊い存在として大切に思う心」を持って接する」ことを事業所理念としており、日々連絡帳やOJTで注意を喚起し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、思いや希望を読み取ったり、あせらずゆっくりと会話して本人の意思確認をし、本人が話しやすい声掛けを行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングでレクを楽しんで頂くことが多いですが、居室で過ごす時間が必要な時には尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選ばれる方にはほめ言葉をかけたり気温に合わせお声かけをしている。スタッフが選ぶ場合、お似合い服を選ぶように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、盛り付け、食事、片付けと、できることを分担してご入居者様、スタッフ一緒に行っている。食事と同じものを頂き楽しみながら行っている。	野菜の下拵えやお絞り配り、片付け、食器洗い等出来る方は職員と一緒にやっている。栄養バランスに配慮した毎日の食事の他にも、誕生会祝いや行事食・外食などで食べる楽しみを応援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については記録し一日の摂取量を気にかけながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録しながら、時間をみてのトイレ誘導をしている。夜間も含めトイレで排泄できるよう支援している。	比較的元気な方が多くオムツの方は少ない。排泄チェック表で本人の排泄パターンを把握し、声掛け誘導し、夜間も含め全員がトイレでの排泄が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず、飲食物の工夫、水分摂取、運動などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっている。入浴を楽しんで頂けるよう心掛けている。	週2回午前中の中の入浴を基本としている。入浴時にはさりげなく健康状態を観察し、一对一の会話の中から入居者の思いを汲み取る貴重なひとときにもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝起きて、夜眠れるといった一日の生活リズムが作れるよう、日中は体操や散歩をして体を動かす活動を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者の指導のもと、スタッフは一人ひとり間違いなく薬を服用する様ダブルチェックをして気をつけている。薬が変更になった時には変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでは張り合いや緊張感、協調性なども感じられるような工夫をしている。お手伝いは一人ひとりに合ったものを行って頂き、ご自身の居室の掃除はそれぞれが行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常に散歩を心がけている。季節を感じることで、喜ばれている様子が見られる。	天気の良い日は11時頃から2～4人で環境に恵まれたホームの周辺を散歩しており、地域の方とも馴染みとなっている。車を利用したの外出を年2～3回実施している。	家族アンケートからは外出支援の取り組みが理解されていない向きもあるように見受けられる。個人別に散歩の記録も付けているので、データを整理して運営推進会議等で話し合われることも有効と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話かけたりする事はあまりありませんが、手紙のやり取りについては支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に心地よく過ごして頂くよう、毎日入居者様とスタッフとで清掃し、換気は必ず行っている。リビングにはちぎり絵や折り紙など季節感のあるものを作り飾るようにしている。	ホームはゆったりと余裕のある造りで、小上がりのある居間は広く採光もよく明るい。オープンキッチンに入居者の参加も容易である。広い廊下は両サイドに手すりが設置されており、雨降り時には散歩代りの歩行の場にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で、また静かに過ごされるのが好きな方も、安心して過ごして頂けるようテーブルや椅子の配置の工夫をしている。新聞を静かに読まれる方にはソファなど過ごしやすい場を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居開始時に、使い慣れた家具や衣服などを居室に置いて頂くようお願いしている。食器も使い慣れたものを持ってきて頂き、ご自分の部屋だとわかるようにしています。	居室は使い慣れた家具・衣服などが配置されている。起床すると日常着に着替え、ベッド上の布団を畳み晴天時には干している。またマットも上げ風を通し、居室の掃除も職員と一緒にしたりして、メリハリのある生活の支援がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室やトイレだと分かるように名前をつれたり目印をつけている。椅子にもご自身の座布団を置き、わかりやすくなっている。共有スペースには手すりが設置され、安全に歩行しやすい広さが確保されている。		